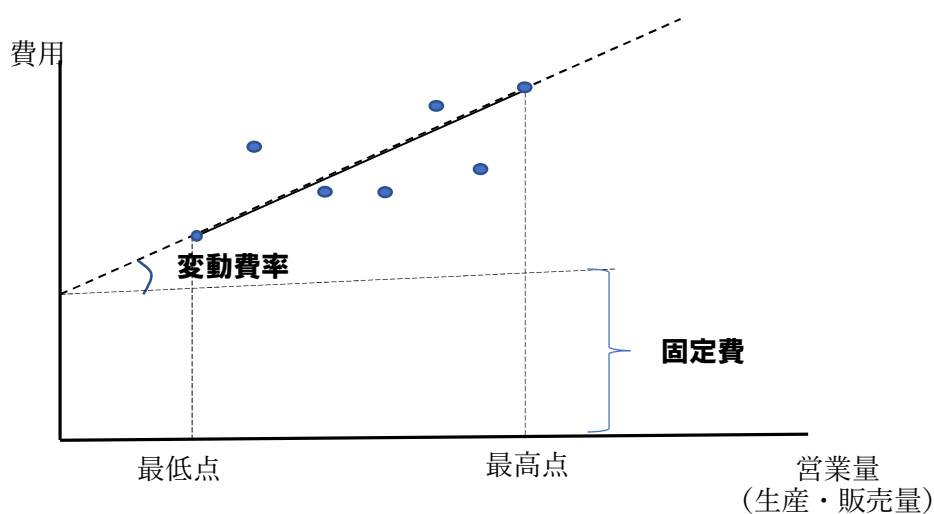


(2) 原価の固変分解

直接原価計算では原価を固定費と変動費に分解することが必要となり、このことを固変分解という。固変分解には様々な方法がある。

- ・ 高低点法—過去の営業量と費用のデータから、最高点（最高営業量）と最低点（最低営業量）を代表値として選び出し、その2点から変動費と固定費に分解する方法。



(問題) 次の資料により高低点法により、変動費率と固定費額を求めなさい。また、生産量が380個の時の製造間接費を計算しなさい。

月	生産量 (個)	製造間接費発生額 (円)
10	200	1,100
11	280	1,400
12	400	2,100
1	210	1,200
2	340	1,850
3	220	1,300

(解答) 高低点法により 10月 (200個) と 12月 (400個) のデータを代表値とする。

$$\text{変動費率} = (2,100 - 1,100) \div (400 - 200) = @ 5 \text{ 円/個}$$

$$\text{固定費額} = 1,100 - (200 \text{ 個} \times @ 5 \text{ 円}) = 100 \text{ 円}$$

$$\text{生産量が 380 個の時} : 380 \text{ 個} \times @ 5 \text{ 円} + 100 \text{ 円} = 2,000 \text{ 円}$$